



姉妹都市・米国アイダホフォールズ市の訪問団と交流できるチャンスです!

7月29日(金)から8月8日(月)まで、村の国際親善姉妹都市・米国アイダホフォールズ市の学生19人(13～18歳)と引率者4人が来村します。訪問団は村内外の一般家庭にホームステイをしながら、さまざまな交流活動を行います。東海まつりにも参加しますので、見掛けたら声を掛けてくださいね!

なお、以下の日程で歓迎会・送別会を行いますので、皆さんぜひご参加ください!

【日 時】

歓迎会…7月31日(日) 午後5時～8時 送別会

…8月7日(日) 午前9時30分～午後0時30分

【場 所】

姉妹都市交流会館

【参加費】

大学生以上…1,500円/人 中学生・高校生…500円/人 小学生以下…無料

【申し込み・問い合わせ】

歓迎会は7月29日(金)、送別会は8月3日(水)までのそれぞれ午後5時までに、電話または電子メールで、姉妹都市交流会館(☎282-0535 ☒ tokai-international@net1.jway.ne.jp)へ申し込みください。

ふるさと歴訪
～歴史を再発見～

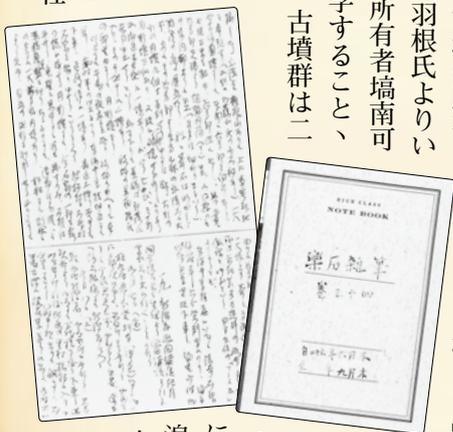
大場磐雄先生と東海村

土浦市立博物館長

茂木 雅博

私はこれまで、自分で調査した遺跡を紹介してきたが、今年度からは東海村の遺跡を訪問された考古学の先学について紹介したい。今回は、元國學院大學教授で日本考古学史上に大きな足跡を残された大場磐雄先生について触れたい。先生は大正2年から昭和38年まで克明な調査記録『築石雑筆』を残され、その巻三十四(昭和26年6～9月)に「湊から村松村へ」と題する記録が見られる。

記録によると先生は、9月5日に那珂湊の檀原神宮境内の住居跡を見学され、翌日には「石神駅着、天よく晴れり、駅前よりバスにて村松村役場に至り、ここにて古墳の所在を問う、村長不在、庶務係の黒羽根氏よりいろいろ説明をき、且つ古墳の所有者塙南可氏も来りてその案内にて見学すること、なり、自転車をかきりてゆく。古墳群は二個所にあり、位置は荒谷の権現山を中心とするもの、二は駅に近き東海中学校附近とす、先ず前者を視察す、荒谷の集落に接したる丘陵上に権現山ありて上に素鷲神社



を奉祀す、(又加蘇山社の小石祠あり)一大前方後円墳にして東南に前方部を向けたり、長径百米を越ゆ、前方部は低く長し。且つ嘗て前方部より埴輪円筒(?)出土、又同様のもの後円部よりも出土、周濶の痕も歴然なり、段と葺石は明らかならず。更にその前方部より東方山林の丘陵上に大小の円墳九個を並列せり、中に頗る大形の円墳三個あり、又既に一部破壊せられしものあり、又附近の墓地に一墳ありしが、今亡び、その折り直刀出土せり、丘を下り真崎の集落に入り、その平地中に一墳あり、役場の黒羽根氏の邸宅内にして円形墳なり。」との記述がある。これは真崎古墳群の大変貴重な記録である。

午後には荒谷台古墳群について記録され、「一大前方後円墳あり、松林にて形状もよく見ゆ、自然の地形を利用せるものにして西方に前方部を向けたり、渾、段もあり…」とあり、午後1時26分の列車で帰京されている。ここに記された古墳群が70年後も現存することは奇跡である。